

特別展 「癒しの日本美術—ほのぼのの若冲・なごみの土牛—」

山種美術館(渋谷区広尾) 23. 12. 02～24. 02. 04

本展は、「伊藤若冲」「長沢芦雪」「上村松園」「奥村土牛」などの作品「約 60 点」を紹介し、心が癒されるような日本美術の観賞を通して、“心が温かく、優しい気持ちになれる日本美術”を観賞できる展覧会の開催である。

伊藤若冲 《伏見人形図》チラシ左図 《布袋図》チラシ右図



伏見人形は、素焼きに胡粉をかけて泥絵具で彩色した京の土人形で、形態の丸みや大ぶりの造形や彩色に魅力があり、とても素朴でゆるやかな表情であるのが特徴である。

本作品には布袋と牛が一体ずつ描かれ、布袋の肉身にはキラキラ光る雲母と思われる粉が、赤い衣や緑色の部分にはザラット砂状の粒子がかけられているのは、絵そのものを工芸品と同じように考えていたためであるだろう。

長沢芦雪 《菊花子犬図》



《七福神図》素朴でゆるやかな作品



奥村土牛 《兎》 1936年 絹本・彩色・屏風（2曲1隻）



画伯の作品は、絵の対象への想いが感じられて、穏やかで優しいことが特徴である。本作品は、上部に大きく余白をとった空間に、モデルの柔らかな毛並みをした、かわいい3匹のアンゴラ兎のじゃれ合う姿が見事に捕らえられ描かれている。